

【復興支援道路】

一般国道 340 号立丸峠工区の現場見学会を開催！

～ 未来ある子供たちの復興教育として ～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

県が「復興支援道路」として遠野市恩徳～宮古市小国間で整備を進めている一般国道 340 号立丸峠工区について、宮古市立川井小学校の復興教育の一環として、6月8日（月）にトンネル工事（（仮称）小峠トンネル L=920m）の現場見学会を開催しました。

一般国道 340 号は、東日本大震災津波の際、沿岸部の一般国道 45 号等が通行止めとなる中、後方支援拠点として機能した遠野市から宮古市や大槌町等を結ぶ道路として、自衛隊や消防、物資輸送等を担う「命の道路」として機能した道路です。本現場見学会に先立ち、6月4日（木）に小学校の授業の中で震災時に道路が果たした役割等を児童に学習していただいた後、トンネル工事が進む（仮称）小峠トンネル築造工事の現場を間近で見学していただきました。

現場見学会には、宮古市立川井小学校の4年生から6年生の児童 30 名が参加し、トンネル掘削機械・設備やトンネル掘削工事の最前線の状況を間近で見学したほか、事前学習の中で児童が書いたメッセージ入りの防水シートをトンネル内部に貼付けていただきました。

児童の皆さんからは、「私たちのために工事を一生懸命進めてくれて本当にありがとうございます。みんなのために、未来のためにこれからもがんばってください!」、「完成したトンネルを通るのが楽しみです。ありがとうございます。」などのトンネル工事に対する温かいエールなどをいただきました。

川井小学校の事前学習



事前学習で防水シートにメッセージを記載



トンネル坑内を現場見学



メッセージ入り防水シートをトンネルに貼付け



児童の皆さんが書いたメッセージ入りの防水シートは、トンネル工事が進むとコンクリートに覆われて見えなくなってしまうかもしれませんが、トンネルが完成した後もずっとトンネルの中に残り続けます。

平成26年8月から掘削工事を進めていた(仮称)小峠トンネルは貫通間近です。県では、今年を「本格復興邁進年」と位置付け、復興を強力に推し進めており、立丸峠工区の一日も早い完成に向けて、安全に万全を期し、全力で工事を推進していきます。



トンネル掘削の最前線で集合写真



貫通間近の(仮称)小峠トンネル

【立丸峠工区の事業概要】

県では、岩手県東日本大震災津波復興計画に基づき、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保し、災害強く信頼性の高い道路ネットワークを構築することを目的として、三陸復興道路整備事業を実施しています。

一般国道340号立丸峠工区は、三陸復興道路整備事業の「復興支援道路」に位置付け、県が重点的に整備を進めています。

一般国道340号立丸峠工区の事業概要

